

令和7年度 第3回学校運営協議会記録

1 日時

令和8年3月2日（月） 15:00～16:30

2 場所

本校会議室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員 8名

A 委員（学識経験者）

B 委員（教育関係有識者）

C 委員（福祉関係者）

D 委員（PTA 関係者）

E 委員（企業関係者）

F 委員（地域関係者）

G 委員（福祉関係者）

H 委員（行政関係者）→御欠席

I 委員（本校職員）

(2) 本校職員 9名（委員の校長も含）

校長 副校長（小・中・高）、事務長、総括教務主任、学部主事（小・中・高）

4 内容

(1) 開会のことば

(2) 校長あいさつ

本日は、ご多忙の中、本校の学校運営協議会へご出席いただきまして、ありがとうございます。日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、年が明けてから今日まで月日の進み方は早く、年度末の時期となりました。卒業式や終業式など年度の区切りも見えてくる時期となり、学校の中が少しせわしない感じになっておりますが、子供たちは日々の学校生活を落ち着いて過ごしていることにこの1年間の成長を感じているところです。同時に、1年間の短さを実感するというのも事実でありまして、年間の限られた日数の中で展開される教育活動において、学びの質を維持しながら1年を乗り切っていく難しさも感じているところでもあります。

過日になりますが、2月6日金曜日には本校高等部の合格発表がありまして、新年度の入学予定の生徒が決定いたしました。加えて、2月18日水曜日には入学説明会があり、新年度に向けた準備が少しずつ進んできております。令和8年度の児童生徒数は微増で171名、ついに170名を越える状況となりました。学級数43学級、内訳は、小学部が21学級、中学部11学級、高等部11学級を予定しているところです。

本日は、今年度の学校運営について振り返り、それぞれのお立場やご経験をもとにご意見を頂戴し、新年度に向けた学校作りに生かしてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 協議

ア 令和7年度学校運営状況について

資料のとおり

校長が次の5つの観点について現状と課題を説明し、承認された。

- ・学びの保障
- ・安心安全の保障
- ・地域、関係機関との連携
- ・専門性の維持と向上
- ・業務改善の推進

<質疑・応答>

G委員：PTA行事への参加状況について教えてほしい。

校長：例えば、小学部で行われた親子レクには半数以上の参加があった。進路に関わって、何か所かの事業所に来校していただき進路説明会を開いているが、こちらも高等部の保護者を中心に半数以上の参加があった。年金制度説明会も開催しており、30名程度の参加である。具体的にどういう内容の行事なのかをお知らせすると興味関心を持ってもらえ参加に繋がっており、決して参加率が低いわけではない。もっと参加率を上げなければならないとは感じているが、平日、皆さんがお仕事を抱えている中での行事の開催ということを考えれば、参加率は高い方ではないかとも捉えている。年金制度説明などは、一度聞いただけではわからないところも多いので、毎年参加されている方もいる。

F委員：先月の13日（2月13日）に行われた高等部の作業製品販売会に参加できた。受付簿に地域の人用の欄があって12名の参加があったようだが、例年の人数はどうか。

副校長：今年が一番多かった。

校長：色々な学校の活動について、地域に広めていただいております。地域の方からのアンケート回答もあり、高等部職員の励みになった。

F 委員：比較的学校の近いところの皆さんが参加したようだ。新山地区は4班に分かれていて、南側が1、2班、学校に近い北側が3、4班である。参加はだいたい4班の人がほとんどのようだ。学校の近くに住んでいる人にとどまっている。もっと広くたくさんの方が来てもいいのではないかと思った。

D 委員：PTA 行事については、私が参加している行事については分かるが、参加していない行事については、参加率など詳しくはない。ただ、ある程度参加する人は固まっていると思う。参加するつもりのない方は、案内を出しても最初からあまり見ていないのではないかとも想像している。お仕事の都合がなかなかつかないなど、様々な理由で参加できない方もいるのは確かである。

B 委員：安心安全の保障の項目で、避難訓練について説明があった。「てしろもりの丘」の職員の方々にお手伝いをいただきながら、移動距離のある少し離れた場所への避難ということで、非常に実効性のある内容だなと思った。資料には、教職員の防災意識の向上につながったと書いてあるが、実施してみて課題と感じたことを教えて欲しい。

校長：学校の近くに「てしろもりの丘」が管理している運動場がある。「てしろもりの丘」の敷地内を通過して運動場まで移動するという内容で、歩くと10分以上かかるところだったこともあり、隊列が前後にかなり長く伸びてしまった。児童生徒・教職員で200名を越える集団が同じ系統で一斉に移動することは非常に難しかった。トランシーバーも準備したが、適切な指示が要所にうまく伝わらないという問題が起きた。「てしろもりの丘」の職員の皆様には要所要所に立っていただき、避難誘導と見守りをしていただいた。これについては、事前の打ち合わせどおりであったが、隊列が長くなってしまったことについては、予想を越えた状態だった。避難場所である運動場に先に行って待っていたが、姿は見えるもののなかなか到着せず、時間がかかってしまったという印象である。スムーズな避難については、課題が残った。

また、ヘルメットをかぶって避難しているが、高等部の生徒にもなると職員と体格も似てきて、同じ白色のヘルメットをかぶっていたせいもあり、職員がどこにいるのか、遠くからでは目視での区別が難しかった。職員ヘルメットには色付きのテープを貼るなどし、視覚から入ってくる情報を分かりやすくするなどの対策を講じなければならないと考えている。

今回は山火事を想定した避難訓練であったが、本校では他に土石流、北上川の氾濫など様々なことを想定して行っている。次年度は別の災害を想定した訓練を実施する。

A 委員：特別支援学校に在籍する子どもの数がどんどん増えていることに関わって、次年度も各学部で教室が不足していることの説明があった。ただこれ以上の教室改修はキャパシティーから言っても難しいとのことなので、今後どうしていくのかという問題が残っている。これは学校だけで考えるものではなく、教育委員会など関係機関や他の学校も巻き込んで考えていくことになると思う。長期的には県教委が方針を示すと思うが、一方で学校の方は目の前の児童生徒の学習活動を回していかなければならない。そこで、ピンチはチャンスというわけではないが、地域との連携（花咲く丘プロジェクト）が進んできていることを踏まえ、今後はさらに地域を活用してはどうか。学習活動を学校の中だけで完結してしまおうとするとスペースが足りないということになる。もっと外に出ていくのはどうか。ここ数年の取り組みを見させていただいたが、当初のころに比べると、校外へ目を向けた活動が増えてきている。職員の意識も外へ開けてきていると感じている。ベースとなる学級や教室というのは必要であるが、学習活動の展開については、校内や教室にとらわれる必要はない。今までより以上に、子どもたちの学習の場や学習内容を外に広げてほしい。逆境を逆手にとって、地域や社会とより一層繋がっていくにはどうするかを考えていくことは、ある意味ではチャンスになると思う。外に出て活動する際は、子どもたちの安全の確保などの条件をクリアした上での教育活動の展開になる。すぐに実施に移せるものではないが、検討していただきたい。

イ 令和 8 年度学校運営に向けて

資料のとおり

校長が次の 7 つの項目について基本的方針を説明し、承認された。

- ・学習指導要領に基づいた、教育実践の積み重ねの推進
- ・岩手の復興教育を基にした特別支援教育としての取り組み
- ・いじめのない安心安全な学校づくり
- ・盛岡ひがし支援学校としての地域連携の在り方の実践
- ・落ち着いて学ぶことのできる学習環境の整備と施設の維持
- ・継続した業務改善の取り組み
- ・教職員の業務量の管理及び健康確保の措置

ウ 令和 8 年度学校運営協議会委員について

原案どおり承認

(4) 報告

ア 令和7年度後期活動報告について

児童生徒の活動の様子をスライドで示し口頭で報告（配付資料なし）

イ 令和7年度学校評価結果について

資料にしたがい副校長が報告

ウ 令和7年度いじめアンケート結果について

資料にしたがい副校長が報告

(5) その他

ア 高等部3年生進路先一覧

資料にしたがい副校長が説明

(6) 各委員から

A 委員：学校運営協議会の立ち上げ前の学校評議員の時から関わらせていただいた。本当に皆様のお陰で何とかここまで務めることができた。本当にありがとうございました。

B 委員：丁寧なご説明、本当にありがとうございました。全国的に子どもの数が減っているが、こちらの来年度の児童生徒数は増えるということで、盛岡ひがし支援学校が担っている役割の大きさを改めて実感している。子ども一人一人の特性や発達段階に応じて、適切な教育活動が展開されているということ、今日様々なことを聞いて改めて感じる事ができた。本当に素晴らしい。来年度も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

C 委員：てしろもりの丘よつばは入所施設なので、県内各地から措置という形で入所する方がいる。その方の登校先ということで、盛岡ひがし支援学校には大変お世話になっている。盛南地域、矢巾、紫波で、特別な支援を必要としている児童生徒が増加していることに加えて、施設が隣接しているということも、こちらの児童生徒増加の原因としてあるのだろうと感じている。施設入所の背景は、虐待等によって発達形成がうまくいってない子もおり、先生方には本当に粘り強い取り組みをしていただいている。障がい特性に応じた関わりだけではなく、その手前の段階の経験の少なさや、形成ができていない中での、色々と広く対応していただいている。本当に感謝している。その中でも、学校と情報交換しながら、色々な体験に取り組むことで、みんな元気に過ごしている。ただ一方で、先生方

のお仕事やメンタルヘルスの部分で、ご負担になってるところがないかというところは懸念してるところだ。児童生徒が先生方に怪我をさせてしまいかねない場面もあるので、お時間頂戴することにはなるが、朝夕の情報交換や、ご家族とのご関係や、気になることあったら、こちらの方からお伝えし、先生方にも気になるところがあればどんどん聞いていただいて、予防的対応が取れるところはしっかりやっていきたい。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

D 委員：次年度の委員は後任の方になるので、よろしく願いしたい。私は3年間委員として関わった。この学校運営協議会に参加して楽しかった。ありがとうございました。

E 委員：ご報告いただいた学校の運営状況、昨年度も非常に素晴らしい状況で、今年度も素晴らしく、職員の皆さんでうまくやっているなあという感想だ。質問だが、盛岡ひがし支援学校だけ児童生徒が増えているのか。それとも全国的に増えているのか。

校長：知的障がいのある子どもたちが通う学校については、盛岡近郊で言えば、盛岡みたけ支援学校がある。こちらも児童生徒数は増えている。次年度は185名と聞いている。盛岡市の北のみならず、滝沢市や八幡平市の児童生徒が入っている。

E 委員：私は全国的に増えているのかと心配していた。児童生徒が減っていき、特別支援教育に関わる先生方も減っていくような世の中を希望しているが、どうしても特別な支援を必要とする子どもたちは居る。6年ほど前に、私が代表を務める一般社団法人が「雲の信号」の運営に関わり、就労継続支援A型、B型の施設を始めた。よく零細企業が人手不足を訴える。であれば、障がいをもった人たちと社員が一緒になり、しっかり仕事ができる環境を整え、人手不足を解消できたらいいなあと思い事業を始め、悪戦苦闘している。先ほど高等部の活動報告の中で「雲の信号」に作業製品を置いていることについて触れていたが、作業製品を置くようになった経緯は、コロナ禍で「ひがしの日」や作業製品販売会に外部の人が来られなくなり、作業製品のストックが増えていったことへの対策に協力して始まった。こちらとしては、夏ぐらいまでにもう一步踏み出して、クロスステラスの中に、障がい者のショップを作ろうと考えている。うちの施設に入っている子どもたちの中にも絵を描く人、スポーツをする人など色々な人が居るので、そういう人たちのショップを作りたいと計画している。その中で、学校の職員や子どもたちとも連携しながら、一步踏み出して、商売の勉強というか、「お金を稼いでその儲けで生きているのだ」という勉強をする機会を設けたいと考えている。何かの機会があったら、是非よろしく願いしたい。

F 委員：今年度、全国的にクマの出没が話題になった。手代森小学校のあたり、黒川から東安庭までりんご畑がある。山の上の方にはアップルロードと呼ばれる道路が走っている。北側の東安庭から門まで、国道 106 号に向かう道路のところまでは獣害防止のための電熱線が設置されている。それでもクマは入ってくる。ふもとの方の一般家庭の生活道路にはクマの糞があったという情報もある。この新山地区には電熱線が張られていない。張られていないがクマは出ていない。最近、近隣の地区でイノシシが目撃されている。シカは頻繁に出没する。夏に私のりんご園地で、ニホンジカが木陰に横たわっていたこともあった。児童生徒が校外学習等でこの地区を歩いている際に、獣に出会ってしまうとまずい。シカは大人しいが、イノシシはこちらに向かってくる。獣対策について考えていく必要があると思う。

G 委員：「ひがしの日」にお邪魔すると、多くの方が盛岡ひがし支援学校に関心を寄せていることが分かる。また、児童生徒に職員がしっかりと寄り添っていることが分かる。学校運営がしっかりと行われていることがうかがえる。私の施設でも卒業生を何名か受け入れているが、いかにして社会と結びつけていくかという学習をさらに進めていかなければならないと日々感じている。生活の拠点を確保して、生活の安定の上に職業が成り立っていることを教えていきたい。先ほど ICT の話題もあったが、皆さんスマートフォンの操作は、あっという間に覚えてしまい、知らないうちにゲームをクリアしている。適切な使い方をしている分には問題はないが、手当のほとんどをスマートフォンの通信料に使ってしまう人もいる。スマートフォンの使い方についても支援が必要になってきている。今はスマートフォンを持っていない人の方が少なくなっている。お金の問題はもちろんだが、犯罪に巻き込まれないように、若い職員が中心となってアドバイスをしている。学校教育の中でも授業でタブレットを使う時代である。適切なスマートフォン等の指導は教育上欠かせない。また、スマートフォンは安全に暮らしていくためにも欠かせないものになっている。引き続きよろしくお願ひしたい。

校長：本日は、学校運営協議会に来ていただき、貴重な時間を本当にありがとうございました。貴重なご意見を多数頂戴し、また新年度に向けて、様々いただいたご意見をもとに、学校運営を考えていきたい。引き続き、新年度もよろしくお願ひしたい。本日はありがとうございました。

(7) 閉会のことば